名電高新聞
編集兼発行
名電高新聞部
印刷所
共生印刷株式会社

肥馬高天

学校長　後藤淳

校訓
誠実勤勉

二十四季からいうと、寒露・霜降・立冬・小雪とつづくこの季節、一年中で一番空が澄み、気候の住みよい時期となります。

古く、中国でこの季節を「肥馬高天の候」と申しました。「我が国では、「天高く馬肥ゆる候」と言われています。

この季節は、すべてが結実し、冬にかけて来春にむかって、活力を蓄積する時期になります。我々人間においても、一年間の一応の完成をみる時期となります。将来にむかって、大きく躍進する潜勢を蓄える時でもあります。

学校においても、教育環境が整備され、生徒諸君の学習に好ましい、住みよく学びよい場が整えられてきました。二学期こそ、生徒諸君が一日一日を大切に、自分みずからの研修に一段と力を入れていただくよう、心してもらいたいと思います。

就職関係も、入社試験が始まりました。大学進学希望者の諸君には、最後の仕上げの時となります。「肥馬高天の候」、自分のベストを尽くして、悔いのない高校生活を過していただくことを熱望します。

行事では、新しい内容の加えられた学校祭が、生徒諸君自らの手で企画運営されるものであり、一環として開催される秋季運動会と併せ、その成果が期待されております。

ふりかえって、今年の夏を思いますに、学校・PTA・生徒会一丸の応援による夏の甲子園における野球の活躍、インターハイには卓球・フェンシング・バドミントン・重量挙・相撲・バスケットボール・陸上・自転車・庭球・剣道、全国大会に馬術・アーチェリー・ゴルフと愛知県では断然トップ、全国でもこのような多種出場校はないであろうと考えられます。それぞれ実力を発揮し、多くの収獲を得たことは喜びに堪えません。また、文芸面でブラスバンドが例年の様に活躍し、県下各中学校の行事に協賛演奏をし、感謝されてまいりました。その他、運動部・文化部とも一歩前進をめざす施策と強化が行なわれ、好まれる高校生像の樹立をめざして、努力精進されることは喜ばしいことであり、一層の自重自愛を望むものであります。

空気は澄み、気候の穏やかな秋の季節を、各方面に最も実り多い時とされることを祈ります。

七年ぶり 夏の甲子園出場!!
"ベスト4へ"

愛知県大会

150校という全国一の激戦区となった今年の愛知県大会は、さる7月14日（金）に封ぎられた。我校野球部は、第一・二回戦と順調に勝ち進んだ。準々決勝の、対刈谷高戦の際に今大会初めて相手に得点をゆるした豊川工業高戦（第四回戦）の時の様に、よくピンチにおいこまれたものの、ナインの好守・好打で、準決勝とも切り抜け一昨年ぶりに決勝進出。7月30日（木）決勝―愛知高戦では、名電一点先取したものの、6回裏に追いつかれてしまいその回まだピンチが続く。しかし、工藤の力投、内・外野の好守備によりピンチをうまく切り抜けた。9回表に押し出しとスクイズにより二点を入れ決勝点としたが愛知もさすがに簡単にはひきさがらず、9回裏に一点を返すほどであった。しかし、ナインもう一息とよいプレーを見せ、七年ぶり二度目、夏の甲子園出場権を手にした。雲の切れ間に青空が見える下、表彰・閉会式がおごそかに行なわれ、ここに愛知県大会の幕がおりた。

（記　幡）

VS長崎西

大会第六日第二試合・対長崎西高校の試合内容は、名電は、七年ぶり二度目の出場。前回の涙を喜びの涙にし、県の甲子園通算二百勝一番乗りを目標にしていたことと思います。名電先攻での、この試合、まず一回表、一番中村が、硬くなっている二塁手のエラーを誘い先勢無死二塁。続く二番高橋が送り、三番吉岡の二塁ゴロの間に走者三塁へ、期待の四番山本は、二塁フライで、先制のチャンスを逃した。その裏、長崎西（以後西高）の攻撃。一番江頭に四球。二番吉岡が、送って走者二塁へ。西高絶好のチャンス。しかし、三・四番と、工藤の好ピッチングで三振。二回表、五番工藤・六番佐藤と倒れた。七番上田が、ライト線二塁打を放ち二塁へ。八番寺島の打球は左中間タイムリーヒット。走者還り名電一点先取。そして、寺島盗塁成功で二塁へ。なおも名電チャンス。しかし、中井のセカンドフライでその回は終わった。二回裏、2三振と凡打で、工藤しっかり押える。その後三回―五回まで両校無得点。ここまで、工藤四球一つだけのナイスピッチング。六回表、高橋・吉岡共に遊撃ゴロに終り、『カットバセ！コージ！』で三度目の打席。過去二回凡退に終っている。ここで一発欲しい所。期待に応え、大会第7号ホームラン。名電二点目を入れる。そのホームランに、沸きたつ一塁側アルプス席。六回裏・二点が入り少し気軽になったか八番からの下位打戦を三者連続三振と、完全に乗った工藤、七・八回と両校無得点で、共に最後の攻撃。九回裏、工藤が四球。佐藤送りバント成功。手堅く攻める中村監督。上田ショートゴロに倒れ二死二塁となる。県大会にくらべ活躍する寺島は、ライト線タイムリーヒットを放ち、名電二点目。まだ攻撃は続く。中井がセンター前にはじき返しダメ押しの一点を加えこの回二点目。名電勝利まであと一歩。九回裏最後だ!!と、力投する工藤。八・九番を三振に取り、一番江頭に、五球目を投げた！鋭く落ちるカーブを空振り三振。マウンドに集まる名電ナイン。紙吹雪が舞うスタンド。この一戦、工藤は、16三振を奪い、尚且つ史上19人目のノーヒット・ノーランを達成し、その栄冠を手にした。夏の青空の下での出来事だった。

（記　山本）

VS北陽

記念すべき名電の二戦目、甲子園初のマウンドで、すばらしい栄冠を手にした工藤は、強豪北陽高校と対戦。前試合での活躍を、対する北陽打戦に工藤が、どの様に攻めるかが見ものだった。

一塁へのヘッド・スライディングも及ばず試合終了。スタンドの応援団からは、ため息が漏れると共に、惜然とマウンド上の喜ぶ報徳ナインを静かに見つめていた。

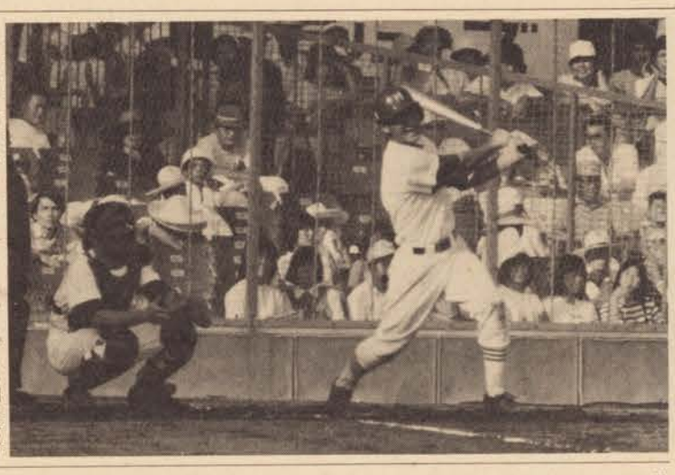
名電ナインの胸中、いかなるものであったのであろうか。

これまで数々の新旋風を巻き起こし、スタンドを沸かせた名電もついに力つき、準決勝で甲子園から姿を消した。

しかし、敗れて悔いなし。スタンドにお礼に来たナインの顔は爽やかで、全力を出しきったという自信のようなもので一杯だった。

ここまで健闘した名電ナインに心から拍手を送りたいと思う。

（記　山守）



試合をふりかえって

今年名電は、中部地区大会で、御殿場西高校と、準決勝で対戦。試合は、延長10回裏に工藤のコントロールミスが、あいつぎ、そのために泣いた一戦であったといえよう。昨年の夏にも見られていたが、まだ直っていなかったのか。しかし、心中中村監督が、ピッチャー交代をさせなかったのは、たぶん勝つことよりも、工藤の成長を期待してのことだろう。その期待を受けて、今年の全国高校野球の県大会では、全試合を通じて8失点という好成績。精神的にも強くなったようだった。東邦戦で顔にボールを受けたにもかかわらず、ファイトを燃し、みごと名電を七年ぶり二度目の夏の甲子園へと導いた。その時、スタンドも、マウンド場も喜びに満ちあふれていた。8月8日に第63回全国高校野球選手権大会の開会式が行なわれた。県大会の優勝旗を手にした中村稔主将を筆頭に名電ナインの入場。実に堂々としてすばらしい入場行進だった。大会六日目の8月13日の対長崎西高では、名電甲子園初勝利をめざし、ファイトを見せていたナイン。山本幸二選手は、三度目の打席を、大会第七号ホームラン。工藤公康選手は、16三振を奪い、なおかつ大会史上19人目・金属バットが、高校野球に普及して以来初めてのノーヒット・ノーランを達成した選手となった。第二戦・対北陽戦においてもその勢いは止まらず、猛然と突き進んだ。この試合にもすばらしいプレーが見られ、延長12回の裏すでに空は、暗くナイターとなっていて、中村稔選手の打席。「カキーン」という音と共に白球が闇をぬけて、レフトのラッキーゾーンへ。これは、大会史上7人目のサヨナラホームランとなった。劇的な勝利を納めた。しかし、みごとな勝利を終えたスタンドは、むざん、言葉には表せないゴミの山もう少し掃除する人の身になって考えてほしかった。対志度商戦では、工藤がホームランを出すなどすばらしい活躍がナインに見られた。準々決勝らしい両軍の試合経過であった。準決勝地元報徳との一戦は、前三試合と違ってよく打れた工藤。報徳は、今まで戦った相手が、強豪で、それに勝った自信が、こうまで打ってくる一つの理由といえよう。結局一点止りの一戦となり負けてしまった。しかし、甲子園のすべての試合において上位打線がさっぱり当たっていなかったのも悔まれることだ。が、甲子園二度目、いや経験者がいないのだから初めてといっていいだろう。そんなチームが、ここまでこれたということは、すばらしい。名電ナインに拍手をおくりたい。又、三年間やって来て、レギュラーになれず、縁の下の力持ちとなっていた人にも拍手をおくりたいと思う。そして二年生のナインに期待したい。ガンバレ・ニュー名電高ナイン!!（詳しい試合経過については、上部に記載してあります。）

（記　幡）

全国の壁厚し！
VS報徳

晴天に恵まれたこの日、八月二十日。大会十三日目準決勝第一試合。この日まで順調に勝ち進んだ名電は、強豪報徳学園と相対した。

一回先攻をとった報徳は、一番高原がいきなり二塁への内野安打で出塁。立ち上がりを心配された工藤だったが、後続を断って無得点に抑えた。その裏、期待された名電の攻撃は、あっさり三者凡退に終わった。その後二・三回は、両校とも無得点。回は進んで四回の表報徳の攻撃。三回までいずれも無死で走者を出しながら点に結びつかなかった報徳は、この回、三番石田が工藤の甘い速球を右中間に三塁打を放ち絶好の先制好機をむかえた。前三試合とは、まるで別人のように打たれるマウンド上の工藤は、またまた苦しい立場に追い込まれた。一塁側アルプス・スタンドからは、「フレフレ！クドー」の大声援が飛ぶ。が、むかえる打者は二回にも中前安打を放っている四番の強打者金村。その金村の当たりは中前へ。センター上田の好守により三塁走者動けず、続く五番西原四球を選び、六番岡部がレフトオーバーのタイムリー・ヒットを放ち、報徳ついに工藤から一点をもぎ取った。しかし、工藤も踏ん張り七番松本に変わる代打若峡、八番野崎と連続三振にとり追加点を許さなかった。その裏名電無得点の後、五回の表報徳の攻撃。九番東郷が無死から右前打して出塁。一番高原は、手堅く送りバンドで一死二塁後、二番大谷、三番石田、四番金村の三連続安打で一点を追加した。二点を先制され心配そうなスタンドの声援、演奏にも自然に力が入っていたのがよくわかった。

それに答えるかのように、五回まで金村にヒットわずか三本に抑えられていた名電は、八番寺島に変わった鈴木が四球を選び無死一塁。続く九番中井、一番中村と倒れたものの二番高橋が左前打して一死一・三塁となった。ここで三番吉岡が、バッター・ボックスに入り期待に答えて二塁へヒット性の内野安打。二塁から中井が還って名電は、待望の一点を上げた。この試合工藤を打ちこんでいる報徳は、七回にも四番金村のセンター・オーバーの大二塁打などでダメ押しともいえる一点を追加して、追いすがる名電を突き放す。名電も七・八回、佐藤の二塁打などで好機をつかむが、いずれも八番鈴木が三振に倒れ、チャンスをつぶした。終盤開き直ったのか工藤は八・九回と報徳打線を三者凡退に切って取った。いよいよ試合は大詰め九回裏名電の攻撃へ。先頭打者は、この試合二安打を放ち、気分を良くしているラスト・バッター中井。が、中井は金村に遊ゴロに打ちとられ一死。スタンドでは、新兵器「ザブタ」を振って必死の応援が続く。打者は、三回戦の対北陽戦でサヨナラホームランを打った一番のキャプテン中村。しかし、期待も虚しく、ピッチャーゴロに終わった。絶望感が応援団の脳裏をかすめる。そしてバッターボックスには、代打大崎が入り打った。しかし、打球は不運にも二塁手野崎の正面へ。万事休止！

一塁へのヘッド・スライディングも及ばず試合終了。スタンドの応援団からは、ため息が漏れると共に、惜然とマウンド上の喜ぶ報徳ナインを静かに見つめていた。

名電ナインの胸中、いかなるものであったのであろうか。

これまで数々の新旋風を

甲子園を考えよう

高蔵高校一年のインタビューに答えていたナインの内容にちょっとショックを受けた。それは、「甲子園よりも県大会優勝の印象のほうが強い」「TVを見ていた方がよかった」とか「ノーヒット・ノーランやホームラン嬉しかったけど騒ぐほどでは。と工藤」このように、高校野球をやる者が夢みる甲子園は、出場権を手にするまでの間だけ燃えていたような言い方。どうしてこのような言い葉が出たのだろう。「甲子園では、自分の時間が持てなかったよ」と、山本君。これは記者団に、ファンのサインにと、自由な時間が持てなかったのではないだろうか。ようするに、ナインよりも、取り巻きが騒ぎすぎなのでは。県大会は、クラスの友達とか、せいぜい学校ぐらいで、自分自身を鍛えるという試合になっていたと思う。それが、甲子園になると、変に県の代表というものが付きまとってしまい試合でのプレッシャーでなく、感じないプレッシャーとなっていたと思う。報道陣・ファンも今一度考える時ではないだろうか。今、工藤を例にして言えば、学校の教室でさえサインを求められ、家では週五十通以上ものファンレターの返事を書き、「自由な時間」を、ここでも奪われている。甲子園のマウンドに立った以外は、他の高校生と同じ。そして、同じ全国大会に行った選手が、騒がれないのも変。学校関係者も、生徒も考える必要があるのではないだろうか。そういう点では、これだけ野球のみに紙面を使ってしまった我々も反省すべき点があると思う。試合経過の所でも述べたように、スタンドのゴミについても、考える必要があるだろう。

もう一度、甲子園について、個人個人で考えてみよう!!

（記　幡）

写真部は今

ファインダーをのぞく真剣な目を持つ部員のいる写真部は、ここ近年活動範囲が、グンと広くなり、めざましく活発なクラブとなりつつある。顧問である杉浦由先生もそれを見て、ホクホク顔。今まで、クラブ活動といえば、めだたず、学校祭・私学展への写真出品が主だった。そのほかの日は、部室（いや、三〇二教室）内で、話し合っているといった感じだった。それが、昨年の御岳山の家の合宿所を封切りに、今年もそれを行ない又、甲子園には部員が多数行きその写真を元にした「写真展」を開いた。これは、テレビでも放送され、皆さんもよく御存じのことであろう。又、常滑での撮影会など一つのテーマを部員が撮り出品するような活動になって来たようだ。今後ますますその活動内容も深い意味を持ち、写真にも一味違った物が出来てくるのではないか。出来てくる作品に期待するにおしくないクラブ。今後ともがんばって意味のあるクラブにしていってもらいたいと思う。

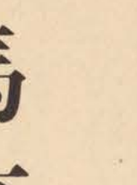
「合宿所の一時」
高蔵高校一年生、野球部を取材

去る9月10日（木）野球部の合宿所を訪れた五人の女子高校生がいた。この五人は、市邨学園高蔵高校の一年生。今日ここを、訪れたのは、10月上旬に催される文化祭（扇祭）にクラス（梅組）としての企画で行うそうだ。合宿所の食堂でその五人と野球部員（三年生）と対面。インタビューを中心とした彼女らの取材。いくつかの質問を代表者が言う。その中で「甲子園での感想を」との質問に、「甲子園では、自由な時間を持てず、テレビで見ていたほうがよかった。」と山本君。「ノーヒット・ノーランやホームランもうれしかったけど、さわぐほどではなかった」と、工藤君。その中で二人とも愛知県大会で優勝した時の方がなんか印象的だったと語っていた。「今後も野球はやって行きますか」には、「全員進みます。」と中村先生きっぱり。こんな内容ではあったけれどもインタビューは、いや話し合は、笑を含むようなこやかさで進んでいった。しかし、一年生。こういったことになれていないせいか、せっかく持って来たテープに録音することも忘れていた様だし、質問についても、返答などで、中村先生の助けがずいぶんあったようだ。それが、横から見ているとと野球部内での反省会、ミーティングの様だった。最後に写真を撮って合宿所を去った彼女たちだったが、その顔は取材を終えたというより、野球部員を目の前に話ができたという印象の方が強く残っていたようだった。せっかく、遠い所まで来て取材したのだからそのクラス展を是非とも成功させてほしいと思い彼女らと別れた。取材中も、グランドの方からは、「カキーン」というバッティング音も聞こえ、新チームをめざす二年生が、がんばっていた。今後の活動に期待したいと思いその場を離れた。記　幡

三年野球部員紹介

名電高野球部
監督　中村豪先生

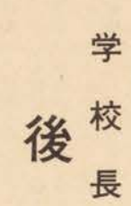
野球部の名電高五項目
礼儀
チーム・ワーク
ファイト
努力
機敏



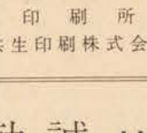
工藤公康　G・3
ピッチャー
名古屋　久方中出身

山本幸二　G・3
キャッチャー

吉岡孝　G・3
ファースト
豊明　豊明中出身

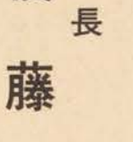


佐藤幹弘　G・3



中村稔　E・3
主将　ショート
知立　竜北中出身

上田和也　E・3
レフト
海部　蟹江中出身



寺島慎二　E・3
センター

中井宣行　G・3
ライト
名古屋　大江中出身

掘之内隆　G・3
ピッチャー
西尾　鶴城中出身

大崎利行　E・3
キャッチャー
海部　蟹江中出身

稲垣政男　E・3
内野手
豊明　豊明中出身

岡井勝彦　E・3
セカンド
高浜　高浜中出身

小野浩司　E・3
ピッチャー
名古屋大江中出身

浅井澄人　G・3
名古屋　桜丘中出身

中島徹弥　E・3
瀬戸　水無瀬中出身

松沢和史　E・3
刈谷　刈谷南中出身

New Life Hot Foods
ニューライフ　ホット　フーズ
ほかほか弁当
名古屋池下店
名古屋市千種区若水町3―10
TEL 052(722)6784
名電高南

ヨギソのパン
ヨギソ製菓株式会社
名古屋市昭和区川名本町1の10
TEL (751) 2858
2859

スタジオ写真で好評の
写真の小塚
駐車場完備
名古屋市千種区田代町
地下鉄池下駅北 300m
〒466 TEL 751―5623

健康の環を世界に
広げる森永乳業……
毎日牛乳を飲んで
立派な身体を作りましょう
森永牛乳
玉木販売所
千種区上野町五の六五
TEL (711) 2235

学校訪問

名古屋商業高等学校

新聞部

九月十二日(土)、我々新聞部は、他校訪問として、CAこと名古屋商業高校を訪れました。

午後一時出発。地下鉄を本山駅で降りて、バスがやっと通れるような、歩道もない一車線のくねくねとした道を、ビュン、ビュンと風を切って通り過ぎてゆく車を気にしながら、十五分位歩いて、勾配の急な坂をかけ登った所に、CAはありました。広い運動場とりっぱで重みを感じる校舎。間もなく(三年後)創立100周年になる伝統が持つ重みでしょうか。

出迎えてくれたCA新聞部部長さん達に案内されて図書室にお邪魔しました。着席して見渡すと、十二名の女の子がずらっと横一列に並んで、私共と、テーブルをはさんで向かい合う形となったのです。こちらは僅かに五名ということもあって初めは畏縮してしまいました。

初めに、両校部長の挨拶と、全員の簡単な自己紹介があり、その後、互いに質問しあう形で会が始まりました。

――○――○――

CA……我校の印象は？

名電……一言で言うと、きれいに思いました。

女子ばかりなんですね。

CA……そうなんです。男子は、一学年で四百人中三十人位しかいません。

名電……新聞部のみなさんでゆうと、明るい人が多いようですね。全体のことは、まだよくわかりませんが。

――○――○――

という具合に進行していきましたが、紙面の都合上校則、クラブ他の項目別に、両校を比較してみると……。

まずは、生徒数です。ここは、全校生徒が約千二百人で、そのうち男子は百人程だそうです。(いいなあ)また、全校生徒数の八割方が就職希望だそうです。

次に校則ですが、この事について、CA新聞部顧問の先生（若い先生でした）は、「校則は……あります。(笑)長いスカートをはいたり、髪にパーマをかけたりしてはいけないなどです。ただ、ソックスのワンポイント禁止など、つまらぬ規則もあるので、職員会議にその事が出される。でも、(CAの生徒に向かって)無くならないね。(笑)それはともかくとして、校則は全体的に自由だと思われる。」と語られました。一般には、公立高は私立高に比べて校則が自由であると言われています。しかし、見たところ、ここではその事によって規律が乱れたりすることなく、皆んながきちんとしています。これは要するに、一人一人がしっかりしているのでしょう。

次はクラブ活動について、CAの運動部については、「昔は色々優勝したが、今は全体的に活発ではない。唯、ホッケーは県で一試合勝てば、全国大会にも出られ、岐阜県へもよく行ってやっています。又、テニスは女子がまあまあ」と先生。その代わりに珠算の検定で二・二級を取ることなど、商業の試験の方が活発であるということです。

そこから続いて専門教科の話になりますが、名電には製図や電気実習などがあるように、CAにも計算実技、事務、コンピューター実習などがあるそうです。又、本校では電気工事士や危険物取り扱い丙種などを取得することが出来るように。CAでは前出の珠算検定があり、これは高校三年間中に、二級以上は自由だそうです。一通り話のきりがついたので、先生や部長さん達の案内で、校内を見せてもらうことになりました。初めに作業室、続いて実践室と横目に通り過ぎました。この二教室はいずれも、事務関係で使うそうです。すると「三年生で実践室を使う時は、三時間ぶっ続けてやり、その時生徒27人に先生が6人もついてやるので、泣いてしまう人もいるのよね。」と、そのうちのひとりが、そこにまつわる話を語ってくれました。それからパンチカード中心のコンピューター室、被服室を通ってカナタイプ室に着きました。(成程、事務でタイプが必要な人もいるからな)続いて視聴覚室。ここは、名電のそれより机やいすがよく、広く感じました。そ

れに明るい室でした。それから生徒控室という所に着きました。ここは、普通に言えば、売店のことです。ここには、最近まで自販機を置いてあったが、故障が多いので引き払ったそうです。続いて行くと、プレハブの軒続きの建物が目についたのですが、これはクラブハウスだそうです。ただ、やはり運動クラブが盛んでないだけに、こじんまりとした感じです。これは、本校の四階建てのそれと比べてしまうのがいけないのであって、ここの場合は、これはこれでいい印象を与えてくれます。その他については、階段にはA－Dまで名前が付いています。これは例えば、「A階段の三階で集まろうよ。」などと目印になり便利だそうです。それに、初めて来た時にも気付いたのですが、ずっとあっちこっち回って来たのに、廊下にはどこにも紙くずのカケラも落ちてないことには驚きました。さすがに女子の多い学校だと思うと共に、我々もこういうところは見習うべきではないでしょうか。それから、どの教室にも、英文で、「To the last to leave. Let's shut the windows and lock them. You are expected to put the light off.」と書かれたボードが貼ってありました。これは、「部屋を最後に去る人」に対しての「戸締まり用心・火（電燈）の用心」の呼びかけといったところでしょう。そんな具合で一週りしてきて、再び会場である図書室へ。その時、気づいたのですが、マンガの本が置いてありなぜですか？とたずねてみると、「本に親しんでもらおうと置いたのですが、今ではその逆になってしまって」と先生。本校の図書室と違って明るい日が入り、専門書中心である本校にくらべ文学誌など、はば広い分野の本。冊数も多そうでした。話は新聞部のことに及びました。ここCAは、現在部員数が二十名で、三年生はおらず二年生が十七人で一年生が三人（全員女子♪）だそうです。発行回数は年三回（学期刊）でうちの二回より一回多い。顧問の先生のお話によると、まったく先生の助けなしで、記事を生徒だけの力で書いているそうで、スポーツクラブの先生に試合結果の原稿を依頼する事が、二・三ある我々は、目からウロコの出る思いでした。

そうしているうちに、四時十五分になり、下校時間（クラブ員以外）を告げる放送があったので、話は尽きないが閉会となりました。再び部長さん達に送られてもう一度ここに来たいなあ、などと思いながら、CAの校舎を後にして坂道を下って帰路につきました。

最後に、我々の訪問を大変親切に、暖かいおもてなしで迎えて下さったCA新聞部の皆さん、たいへんありがとうございました。

読者の皆さん、今後とも、CAその他の学校とも交歓を深めそれを、紙面に載せて行きたいと思っている次第ですので期待して下さい。

（記　山本竜）

教育実習生とともに

個人

今年も教育実習生との、個人インタビューを高木さんに御協力いただき行ないました。

まず、簡単なプロフィールを。

名前は、高木とみ子。生年月日・昭和三十四年10月21日の現在21歳の乙女。体のサイズ・？・？・まあ自分では、スマートと思ったりして。愛用車は、カリーナ。今日は、自宅のファミリアに乗って来たけど。趣味は、手芸が好き。(やっぱり女らしい)それと庭いじり。(笑)あっ年寄り見るみたいに見ないでよ！

それでは、これから質問していきたいと思いますのでよろしくお願いします。

―出身校はどこですか―

岐阜県立多治見北高等学校

―どんな学校でしたか―

○一言で受験校でした。だけどムチャクチャな学校でした。勉強も、やる人はやる。やらない人はやらない。こんな所はどこでも同じと思うけど。生徒は野放し。そんな、色々なことがあったけど今！よかったなあと思います。

―愛工大に入ってよかったと思いますか―

○入って見て面白いし、あまり早くから働いてもしかたないと思ってたから良かったと思います。さぼってるとダラッとなっちゃうらしいけど。

―愛工大をどう思いますか―

○あまりにも広い。冬は死にそうに寒い。だから、スカートなんてはいて行けないんです。

―愛工大には、何人の学生がいますか―

○全校生徒は、五千人ぐらい。でも女子は、40人ほど。

―それでは、現在の高校生を見て何を思いますか―

○高校生って自由でいいなあ―。

―本校の先生の印象は―

○いつも怒っていて疲れるのではないかなあ―。かなり締めすぎじゃないかな。

―頭髪について―

○かなり厳しそうですね。

―では、ここで個人的なことですけど質問させていただきます。よろしいですか。

○え！まあ―。

―まず、恋人はいますか―

○いるようないないような友達なら多いですよ！

―どんなタイプの男性が好みですか―

○ヤクザ的なムチャクチャな子かな。それに、丸こくて可愛い子がいい。

―結婚は、いつごろしたいと思いますか―

○早いとこしたい。23―4歳ぐらいで。だって売れ残るのいやだもの……。

―芸能界では誰のファンですか―

○松田聖子が好き。

―音楽の好みは―

○高校のとき、Hard・Rockが好きでした。中でもレッド・ツェッペリン・ディープ・パープルがいい。その他の音楽もいいけど、民謡・演歌は、好みじゃない。ビートルズは、昔から好きでした。

―動物は好きですか―

○犬が好き。猫は食いじがはっていや。

―テレビでは、どんな番組を見ますか―

○テレビは、あまり見ない。マンガの本は、高校のとき勉強ができなくなるほど読みすぎちゃった。

―愛読書はなんですか―

○日本人とユダヤ人かな。

―枝持ち込みについてどう思いますか―

○いいかんと思う。主旨に反する。

―授業ボイコットについてどう思いますか―

○先生達の対応が悪い。だけど生徒達も、もう少し考えてほしい。やり方に問題がありすぎる。

―ここで話を元に戻したいと思います。何故、製図を選びましたか―

○大学で専攻している科が建築科だから

―では、教師という職業をどう思いますか―

○教える方が、教えられる方よりそれ以上に理解していなければならないので難しい。

―先生になれたらどんな先生になりたいですか―

○先生になれたらいい。もしなれたら、嫌われない先生になりたい。でも、やはり怒る時は怒るけじめのある人になりたい。

―最後に愛工大の受験について、これから受験する人に先輩として一言アドバイスをお願いします。

○そうねー。受験は厳しいわ。でも入っちゃえば、こっちのもの。だけど、簡単に入ったからって、簡単に出られると思ったら大間違い。しっかりしてないと、ついて行けなくなっちゃうから。これから受験する人も、しない人も、なににつけガンバッテね。こんなところでいいかしら？。

―どうも本日は、お忙しい所、長い間、引き止めてしまいまして申しわけありませんでした。本当に御協力いただきありがとうございました。

インタビューアー　山守

団体

本日は、お忙しいところお集まりいただきまして誠に有難うございます。

さて、早速ですが、質問の方に入らせていただきます。

―本校に教育実習に来て、本校生徒についてどのように思いましたか。また、規則その他について何を感じましたか。出身校なども教えて下さい。

大西　正直にいうと、いろんな人からは、悪い学校と言われていたが、教えて見て、僕の高校時代とあまり変わらないな。

杉浦　名電高のOB。全科において悪い人はいないみたい。けど、中・高生のレベルは、昔より落ちてるみたいだな。

横井　名西高出身です。やっぱり初めは、悪い所だと聞いていたけど、こんなもんじゃない。今の高校生。

宇都宮　名電出身です。僕等は、レベルが低かったと思うけど、今は色々と改善されて上がってきたみたい。

福井　この学校は男子が多くて活気があるようだけど、ライバル意識が薄いようだ。

高山　名電出身です。僕等の時より、多少規則が厳しくなっているようだなあ。

木下　瑞陵高出身です。名電高と他校の生徒をくらべると他校の生徒は、マナーが悪いと思ったよ。

光枝　授業中の態度といい僕等のころと変わらないな。

小島　名電出身です。今の生徒は、開き直りが早いから、ひどくりした。

柴田　名電出身です。ここの生徒は、集中力・協調性に欠けているし、クラスのまとまりもない。

三代　名電出身です。今の名電高生は、僕等の時より落ちている。でも、頭髪・服装がきっちりしていて、いい感がする。

寺沢　岐阜の山奥の高校出身です。初めて感じたことは、人数が多いそれも男子が多い。又、悪い意味で連体意識が強くて、素直でないようだ。

高島　名電出身です。僕等がいた時と変わらない。

堀田　まず感じたことは、校舎が入りくんでいる。授業中遊ぶ生徒が多い。

松山　名電は昔とあまり変わってない。頭髪についてはきちっとするのがあたりまえ。卒業すれば伸ばせるし。

森　関西の出身です。まあ、こんなもんじゃないですか。県立の工業高校よりはいい。

木下　瑞陵高出身です。名電高と他校の生徒をくらべると他校の生徒は、マナーが悪いと思ったよ。

光枝　授業中の態度といい僕等のころと変わらないな。

小島　名電出身です。今の生徒は、開き直りが早いから、ひどくりした。

柴田　名電出身です。ここの生徒は、集中力・協調性に欠けているし、クラスのまとまりもない。

三代　名電出身です。今の名電高生は、僕等の時より落ちている。でも、頭髪・服装がきっちりしていて、いい感がする。

寺沢　岐阜の山奥の高校出身です。初めて感じたことは、人数が多いそれも男子が多い。又、悪い意味で連体意識が強くて、素直でないようだ。

高島　名電出身です。僕等がいた時と変わらない。

堀田　まず感じたことは、校舎が入りくんでいる。授業中遊ぶ生徒が多い。

松山　名電は昔とあまり変わってない。頭髪についてはきちっとするのがあたりまえ。卒業すれば伸ばせるし。

森　関西の出身です。まあ、こんなもんじゃないですか。県立の工業高校よりはいい。

木下　何か一つ興味をもって貰いたい。授業を遅らしてすみません。そして有難とうございました。

高島　先生方を信頼してほしい。感謝の気持ちで、いっぱいです。

田中　逃げた人間になってほしくない。後輩にアドバイスできるような人間になってほしい。下手な授業をやって、ご迷惑をかけてすみませんでした。

後藤　人に頼らず、自分一人でやってほしい。

本田　チャレンジしてほしい。感謝の一言以上でインタビューを終りたいと思います。皆さん今日は長い間どうも有難うございました。

クラブ訪問

放送部

本館三階、階段のすぐそばに位置する放送部（NEB）は、現在一年生―三名、二年生―五名、三年生―四名の計十二名と、顧問の竹本先生で構成され、来たる「第26回NHK杯全国高校放送コンテスト」出場に向けて出品物の作成をしていた。コンテストは、アナウンス・朗読部門の他、テレビ・ラジオの番組部門となった。NEBは、番組部門にラジオの課題・自由作品。それとアナウンス・朗読部門にそれぞれ参加する。アナウンスは、自分で作った校内ニュース・朗読は、あたえられた詩の中から自分で一つ選び読む。又、この部門に参加する人も、ラジオ番組の制作も同時にこなしている。番組制作は、課題と自由の二つについて二班に別れ、課題には、「我我高校生」という題がついている。NEBは、高校生中心の音楽サークルに目を向けてその取材・編集に日曜日も返上して当たっていた。市民の足として活躍し、建造50周年を向かえた小牧線を。"昔の物でもいいものがある"と、取材。その取材範囲は広く、かつての駅長さんの家まで訪ずれるほど。しかし、市民とのインタビュー結果は部員の人の主旨とは逆の答えが返ってきたそうで、再び考えをまとめ編集に当たっていた。この間コンテストのことばかりやっていたわけではなく、部が始まるとすぐに一年生は、部室のとなりにある三〇七教室で発声練習。時には、録音のじゃまにならぬよう屋上で、二年生は、三年生につきその技術をより深く受けとるかのように見いっていた。それと共に、一年生の直接指導を担当していた。この中で、先輩は後輩に注意したり、色々なアドバイスをしたりしていたが、これはよくある光景だ。しかし、その時あまり深刻にならぬよう一部の三年生が気をつかっているのは印象的であり、またこのような姿が、クラブ内で先輩・後輩とのけじめがしっかりしているにかかわらず友達のように親しくできるのだろう。ここに、クラブ活動の上での理想を見た感じがした。OBの人もよくみえていたようだが、これも先に述べたようなことがあってのことであろう。では、コンテストの無い時期はなにをしているのだろう。部長・山見幸朗君に聞いてみた。"朝・昼に、「NEB・ミュージック・エコー」を、これは二学期からは、「NEB・サウンドジョキー」となりますが、これを一定期に、体育祭や他の学校行事のアナウンスを担当することが、主な活動です。"と語ってくれた。六月二十日（土）に行なわれたコンテストの結果は、おしくも予選で落ちてしまった。部員の人も番組には、自信を持っていただけに残念だったことだろう。"が、そのあとの反省風景を見てすばらしいなと通感してしまった。また、新たなコンテストが九月にあるそうで次の番組制作に取りかかっていた。今後もクラブ活動をさらに充実させていってもらいたいと思いつつ放送部に別れをつげ今回取材を終えた。コンテスト中など実に忙しい所を、御協力いただきありがとうございました。

（記　幡）

工作部

このクラブ訪問シリーズも早いもので、第三回目を迎えました。今回お邪魔したのは工作部で、部長さんにいろいろとお話しを伺ってみました。

―さて、早速ですが、本年度の新入部員数は何人ですか？―

部長・33人くらいです。

―それはまた大変な人数ですね。(うらやましい)

部長・そうなんですよ。そのため他の文化部からしょっちゅう引き抜きに来るんですけど、みんな断ってくれてるみたいなので安心です。

―では、現在の活動状況を教えて下さい。

部長・ラジコン、鉄道模型、オーディオの三つの班に分れて活動しています。

―各班の活動内容は？―

部長・ラジコン班は、学校祭への展示作品としてトランスポーターを製作しています。鉄道模型班は、もちろん鉄道模型を製作中です。(笑)それにオーディオ班は、管球式プリアンプを製作しているはずです。

―当面の目標と言うと、やはり学校祭への展示作品の製作ですか？―

部長・勿論そうです。皆さん期待して下さいね。

ここで、新入部員の一年生三人に工作部について聞いてみました。

―工作部って一体どんなクラブ？（新入部員に）

部員A・先輩、後輩の差がなくて、暖かい雰囲気のクラブだと思います。

部員B・とても面白いクラブです。

部員C・とても面白くていいけど、女の子がいないのでちょっと淋しいな。

ここで再び部長さんに。

―工作部のモットーは―

部長・モットーというのかわからないけど、新入部員のチームワークが良いので、これを機会にクラブの土台をしっかり作り、より発展させたく思っています。

―では、最後にクラブのPRを何か―

部長・新入部員も言っているように、暖かい雰囲気のクラブですので、気軽に部室に遊びに来て下さい。それにもし入部するのならば、ある程度やる気のある人の方がいいです。是非とも女子部員が欲しいのですが……。

と、インタビューでもわかるとうり、和気藹藹（わきあいあい）としたムードでクラブ活動をしており、筆者の目にも、とても魅力的に映りました。

取材中御協力いただいた工作部の方々に紙面を借りてお礼申し上げます。ありがとうございました。尚、工作部の部室は、本館の四〇八号室ですので、のぞいてみては。

（記　山守）

インターハイを終えて

ウエイト・リフティング部

現在、部員は一年生十名二年生三名、三年生五名の、十八名です。部員は、一日三時間の練習で汗を流し試合に備えています。この競技は、個人競技で他の競技と比べ、集中力を必要とし、精神的にも大変疲れる競技です。野球のような華やかさはありませんが、記録を伸ばそうとする気持ちは、陸上競技と似ています。

競技は、スナッチとジャークの二種目とそのトータルで争われます。

スナッチは、頭上まで一挙に引きあげ、ジャークは、一回さ骨に乗せ、それから頭上にさしあげる種目です。反則としては、腕の不均等な伸びと、途中での静止などがあげられます。

S56年5月31日

本校ウェイトリフティング場において県高校総体ウェイトリフティング競技が行なわれました。

52kg級では、神谷洋行（R2C大府中）がトータル145kgで優勝。56kg級では、西脇光男（E3D蟹江中）がトータル175kgで優勝。

60kg級では、矢野錦也（M2A本城中）がトータル195kgで優勝。75kg級では、水谷覚がトータル200kgで優勝。82・5kgでは、村上勝明（E3G坂下中）が、トータル240kgで優勝、90kg級は、渡辺博行（E3H山田東中）がトータル202・5kgで優勝勝。団体では七年連続優勝。

S56年6月20～21日

亀山高校（三重）において、東海総体が行われました。

56kg級では、西脇光男がトータル180kgで一位と2.5kgの差でおしくも二位。60kg級では矢野錦也がトータル195kgで二年生ながら優勝。82・5kg級では、村上勝明がトータル242・5kgの大会新記録で優勝。90kg級では、渡辺博行がトータル200kgで二位。その結果、団体戦では第27回にして初の優勝を飾りました。

S56年8月2～5日

群馬において全国高校総体が行われました。

本校からは六名が参加しましたが、結果は、82・5kg級の村上勝明が、ジャーク130kgで三位、トータル230kgで五位。90kg級で渡辺博行が、トータル215kgで七位と終わりました。

昭和58年には、愛知県で全国高校総体が開かれます。その中心選手となるのは、今年の一年生です。

その前に、57年の東海総体のV2をねらって、大西、矢野、神谷の二年生を軸にして、がんばっていきたいと思います。

陸上競技部

昭和56年度の陸上競技部としての全国高等学校総合体育大会（I・H）の出場種目は、4×100mリレーと、砲丸投げの二種目でした。I・H出場権を得た種目別全国ランキングでは、二種目ともベスト10に位置していましたが、結果は4×100mリレーが準決勝で負れ砲丸投げは予選を通過したものの、決勝でベスト8に残れないという結果に終わってしまいました。競技会場は横浜駅よりバスで30分位の所にあり、我々の宿舎は東京で会場まで非常に時間がかかり交通面でも不便で選手が試合で、自分の力を十二分に発揮出来なかった原因の一つになるようにも思います。出場選手は4×100mリレーのメンバーは、三年生―二名、二年生―三名、一年生―一名。砲丸投げは、現在二年生で4×100mリレーの二年生―二名を除きあと一・二年生なので、両種目とも来年度にまた期待が持てそうです。成績結果としてはあまりかんばしくありませんでしたが一・二年生にとって今年度の！日出場は良い経験になったと思います。この経験を生かして是非とも来年度再び、I・Hに出場し良い成績を上げてくれるものと期待したいと思います。

えとせとら・すぺーす

コント・コーナー

今号より始まったこのコンリーズ。末長く皆様に御愛顧いただきたいと思います。それでは記念すべき第一弾。

● 新聞部のK君が部活動の時、M君にいきなり、「シャープをくれ！シャープの芯をくれ！」と喚きました。M君は一瞬ギク。「どうしたの？」とK君。実のところK君は、岐阜県に住んでいるせいなのかシャープの芯を、シャープの芯となまって言ってしまったのでした。（大爆笑）

記念すべきか第2弾

● そのK君が、ある朝友人のY君と登校中の出来事です。男子中学生二人組が、Y君達の前を横切っていくとよ！

与作どんは言いました。

「へい！」

もういいのに第6弾、先生と生徒の会話。

生徒「先生！アラスカってどこにあるんですか？」

先生、「そんなもんあらすか？！」

もうやめたい第7弾。

● このうちわ、どいつんだ？おらんだ。

そして第8弾。

● 東京はえーどー。

最後に極めつけ第9弾。

● 新聞部のM君の愛車は、ヤンマーの耕運機でして、毎晩長久手町を暴走しているそうです。M君いわく、「やっぱりヤンマーがええなあ」

いかがでしたか皆さん。何分初めての試みのため、面白くなかったかもしれませんが、その辺の所は御勘弁のほどを。次号に続く。

速報

○○○○○文化祭・文化クラブ・展示内容案内○○○○○

○放送部：レコードコンサート、全60曲（アリス・石野真子・ちょっと前の歌謡曲）リクエスト方式ですので、多数のリクエストまってまーす！

○写真部：写真展（高校野球、御岳山の家での合宿からなど）計約75点。11月1日から4日間部展を開きますのでそちらも見て下さい。（於　ワキタギャラリー）

○工作部：ラジコン大会、レイアウト＆鉄道写真、自作オーディオを鳴らしてまってまーす。

○美術部：油絵、漫画、一般作品などすべて生徒の作品です。日頃の成果を見て下さい。

○無線部：公開運用をし、昨年同様ネーム・プレートの制作及び販売をします。又ＱＳＬカードの展示も行ないますので、ちょっとのぞいていってみませんか！

○製図部：生徒の作品ばかりの展示及び製作を行っています。製作希望者には、使用法をお教えしますので、気軽に部員に言って下さい。

○物理部：ロケットの模型、昨年のリニアモーターカーを改良。他は、あとのおたのしみ。

○化学部：ケミカルガーデン（化学反応の不思議な現象を見て下さい）、他にガラス細工、実験、展示物など。

○図書部：生徒の俳句などの作品展示。

○郵便友の会：交換した手紙の展示。

○落語研究部：10月31日(土)毎度おなじみ名電寄席！　みんな聞きにきて。まってるよ。

○映画研究部：生徒製作の８㎜映画の上映、８㎜の製作工程の紹介、ポスターと音楽も有ります。のぞいてみてよ。まってまーす。

○吹奏楽部：演奏会を行ないます。又、近くコンサートをひかえていますのでそちらもがんばりたいと思います。

○クラス展：Ｅ１１―ガラクタ市・Ｒ１Ａ―中古品大バザール・Ｍ１Ｂ―世界展・Ｇ１Ｃ―作品展
Ｍ２Ｂ―献血展（日赤献血車・御協力お願いします）・Ｅ３Ｅ―原爆パネル展
Ｅ３Ｇ、Ｍ３Ｄ―チャリティー・バザー

○生徒会他（有志）：お化け屋敷

○新聞部：古い新聞のコピーを通して日本の流れをみて下さい。（当日、好御期待）

展示時間

10月30日(金)……９時～３時　（音楽会：本校吹奏楽部）
31日(土)……９時～３時　（生徒出演会、フォーク＆ロック、その他）
11月１日(日)……９時～２時　（映画会・米映画「ジョーイ」）

これは、本校生徒が、主人公。全員参加でよりよい学校祭にしていこう!!

編集後記

さわやかな風が吹き、ますます秋深しといった今日このごろやっと発行にこぎつけることができ、部員4名はっとしている次第です。

今回は、4名という少人数ということもありたいへん苦しかったのですが、在学生OB一名の一つの記事を載せることになりました。

甲子園特集号と題うち、それを中心とし、新しいコーナーを設置した今回の新聞いかがだったでしょうか。

◎ここで部員の一言を。

今回は、念願の他校訪問が出来、幸福感に浸っています。次号では、引き続き他校訪問を予定していますので、御期待!!（ソリスケ）

始めての新聞を発行出来てうれしーい。今後も、どんどん記事を書くぞー。

（新入部員のエリッヒ・ルドルファー）

今回の新聞は、甲子園中心に書いてあり実際、取材よりも応援に夢中になってしまったことが思い出され、一生忘れられないだろうなー

（タノキンハケンジ）

先輩から部長を引き継いでから初めての発行。弱少部員とガンバッテきてやっとできた。苦労したなー。

（ハトポッポ）

全員同意見一言。

新入部員（一年生）がほしい!!　気軽に部室まで!!

カメラ・８ミリ・ビデオ
SONY全商品　ウォークマン安い!!
カセットテープ　ソニー・マクセル　TDK
ビデオテープ
全商品いつも大特価の店
■カラープリント即日仕上げ
受付9:40分～お渡し5:30分(証明写真すぐ出来ます)
ワカミズカメラ
名電高前　711-1869

キハラ製図器
曲線定規
その他製図用具一式
コクヨノート一式
名古屋電気高等学校御指定
大附通商株式会社

名古屋牛乳
内藤乳業株式会社
名古屋市東区大幸町５の46－２
TEL　代　表(７２２)２７７５

辞書・参考書の専門店

名古屋電気学園指定書店　正友館書店
千種区鏡池通２－13　城山中学校南
TEL（７５１）２７１７